



九州観光第八弾

沖縄県編

九州南沖縄県大阪事務所は、西日本一円に沖縄県に関する情報を発信しています。2011年6月よりフェイスブックページも開設。お得なキャンペーン情報や、特選した現地の情報をお知らせしています。沖縄ファンの方、これから沖縄へ行くこととされている方、沖縄県事務所で最新情報を手手してはいかがでしょうか？

沖縄県のあらまし

沖縄県は観光立県を方針に、国内だけでなく、台湾や韓国などにも誘致活動を行っています。沖縄を訪れる観光客は、年間600万人を越えるとのこと。沖縄本島には琉球時代の各遺跡と9つの世界遺産がありますし、一年を通じて楽しめるダイビングや、離島の自然など魅力が盛りだくさんです。一方で、米軍基地問題という大きな課題を抱えているのも沖縄です。基地周辺の住民の生活環境の改善をはじめ、この政治的な課題は沖縄振興を語る上で避けて通ることはできません。

沖縄県の近代史は、明治政府が琉球王国を琉球藩とした1872年から語られることが多いようです。明治政府は1879年に廃藩置県を断行し沖縄県を設立。近代化の道を歩み始めた日本の一部に組み入れました。1924年には、第一次世界大戦後の世界大恐慌の影響でソテツしか食べられないソテツ地獄といわれる状況に陥り、海外や他府県へ移住する人が増えました。第二次世界大戦末期の1945年3月には米軍が沖縄本土に上陸。住民を巻き込んだ戦闘で20万人の方々が犠牲となりました。敗戦後、サンフランシスコ条約で日本の主権が回復した後も、米軍の統治下に置かれたままの状態が続きます。1960年になり、ようやく祖国復帰運動が本格化し、1972年5月15日に日本復帰となりました。復帰から40年が経とうとしている現在も、在日米軍基地の「パーセントが沖縄に集中しています。軍用機の騒音、米軍兵士の不祥事など、基地があることで起こるトラブルは今も絶えません。日米安全保障条約に基づく日米地位協定をはじめ、様々な国際政治の影響の下に沖縄県民の生活があることを知って頂きたいと思えます。

ホエールウォッチングと街の楽しみ

沖縄本島的那覇から西へ約40kmの慶良間諸島座間味島には平成元年からザトウクジラ

が、姿をみせてくれるようになりました。毎年、一月から四月の間、繁殖と子育てのために、座間味近海で過ごすようです。快晴の日には、おおむね80%の確率でクジラを見ることが出来るとのこと。ホエルウオッチングは、クジラへの配慮の下に運営されています。クルージング船が親子クジラの間割り込まないことや、前を横切らないこと、探知機の音を小さくすることなどが徹底されています。クジラも人間の行動をよく観察しようとしているとか。水面から垂直に頭を出し、目が出たところで、体を反転させて様子をうかがってくる動き（スパイホップ）は圧巻です。安心と分かれば親子クジラは伴走するように泳ぎ、潮吹き（ブロー）、尾びれたたき（テイルスラップ）のパフォー



牧志公設市場

マンスを披露することも。また、恋の時期でもあるので、雄クジラのアプローチも盛んです。雌1頭に対し、複数の雄が競い合って自らをアピールします。思い叶わなかった雄クジラは、肩（どこからが肩かはわかりませんが）を落として元氣なく去っていくあたりは人間と同じようです。

沖縄の自然と文化を満喫できる「おきなわワールド文化王国・玉泉洞」（南城市）も訪ねてみたい観光スポットです。王国内の古民家の工房では、藍染め、紅型しんがた、琉球ガラス、シーサーづくり体験などで、世界で一つだけの思い出の品を作ることができます。エイサー、あながま、四つ竹など伝統芸能が披露されるほか、海外を含め他には無い研究展示施設のハブ資料館があります。勇気のある方は、大蛇（ボア）を肩に巻いて記念撮影をどうぞ。玉泉洞の名が示すように鍾乳洞があり、全長5千メートルの内、890メートルが公開されています。鍾乳石の数と種類は日本一を誇ります。

知らない土地の表情を訪ねるには市場が面白い。その筆頭は、那覇市第一牧志公設市場。色鮮やかな近海魚、余すところなく利用する豚肉の種類の多さに圧倒されます。市場の特徴の一つに、店で買った食材を2階の食堂で調理してくれるサービスマンがあります。以前訪れたとき、品定めに迷っていたら、鮮魚店のおばあがイラブチ、ミーバイの魚を刺身にしてくれたの思い出します。

夜の帳とよが下りてからがまた楽しい。各居酒屋では、3年以上寝かせた自慢の古酒、泡盛があります。これを水割りにして、郷土料理のゆし豆腐、ソーめんちゃんぶる、豚の角煮などゆっくり味わいたい。耳にする方言が新鮮で、また、人なつっこい地元の方との語らも旅の醍醐味でもあります。「国際通りに来たら、ライプハウス チャクラに行ったら」と言われ、訪ねたことも思い出の一つ。チャクラは、喜納昌吉&チャンブルーズの店で、「ハイサイおじさん」「はな」「すべて



首里城を象徴する最大規模の建物でもある、正殿は1992年に旧来の遺構を埋め戻す形で復元されました。

くも時勢を見極めた語りを聞くためだけにでも訪れる価値があります。

沖縄県事務所では、12月7～9日に「ふるさとの地酒と名産品まつり」を開催します。職員の方々は、「通常の酒屋さんでは扱っていない沖縄のお酒や、あまり知られていない名産品を紹介します。この機会に来てください」と仰っていました。

沖縄県大阪事務所

大阪駅前第3ビル21階

電話 06・6344・6828

<http://www.13.plala.or.jp/oki.osaka/>

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株)ファッションビジネス・御堂筋新聞